

2021 年度入試状況分析【私立大】

※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎志願者数が多い大学

□志願者数 5 万人以上の大学は12大学、前年度から 6 大学減少

順位	大学名	志願者数			
		2021年度	2020年度	増減	指数
1	近畿大	135,830	145,320	-9,490	93
2	千葉工業大	108,707	103,269	+5,438	105
3	明治大	99,470	103,035	-3,565	97
4	日本大	97,948	113,902	-15,954	86
5	早稲田大	91,659	104,576	-12,917	88
6	法政大	90,956	103,628	-12,672	88
7	東洋大	89,808	101,776	-11,968	88
8	立命館大	83,512	103,669	-20,157	81
9	関西大	79,511	87,625	-8,114	91
10	中央大	78,534	86,476	-7,942	91
11	立教大	65,475	61,308	+4,167	107
12	龍谷大	56,379	53,281	+3,098	106
13	東京理科大	49,301	56,355	-7,054	87
14	専修大	47,381	51,024	-3,643	93
15	同志社大	44,481	49,946	-5,465	89
16	東海大	44,316	56,285	-11,969	79
17	福岡大	44,072	52,112	-8,040	85
18	京都産業大	40,925	56,220	-15,295	73
19	青山学院大	40,123	57,822	-17,699	69

上表は、私立大 525 大学の一般選抜の志願者数集計において、大学全体の志願者数が 4 万人以上の大学をまとめたものです。この中で、2021 年度の志願者数が 5 万人以上の大学は 12 大学で、前年度の 18 大学から 6 大学減少しました。

12 大学のうち 9 大学では志願者数が減少しましたが、これは 2020 年度入試での弱気な志望動向で既卒受験生が減少したことに加えて、コロナ禍の収束が見えないことによる不安や経済環境の悪化、さらには緊急事態宣言等による移動制限、大学での長引くリモート授業などにより、地方在住者が都市部の大学への進学を敬遠する動きがあったことで、1 人あたりの併願校数が減少したことが要因です。

また、コロナ禍による海外渡航制限の影響を強く受けている外国語系、経済・経営・商学系、国際関係系といった文系の系統への人気は低下し、定員全体に文系系統の占める割合が大きい私立大において、志願者数減少がより顕著に表れた結果も加わりました。

志願者数が 10 万人を上回った大学はわずか 2 大学に留まり、前年度の 8 大学から 6 大学も減少しました。その中で、前年度初めて 10 万人を突破した千葉工業大(105)は、理・工系人気の上昇に加え、コロナ禍における経済環境の悪化への対策として共通テスト利用方式の受験料を無料または減免にしたことで、この方式の志願者数が全学部で大幅増加した結果、志願者数は 2 年連続で 10 万人を上回りました。近畿大(93)は 3 年連続減少しましたが、8 年連続で全国最多の志願者数でした。立教大(107)はやや増加で、一般方式における全学部日程の試験日の増加によって、受験機会が増加したことが影響しました。志願者数が前年度減少した龍谷大(106)も、共通テスト利用方式の方式拡大(利用科目数、日程)で受験機会が増加し、やや増加しました。立命館大(81)は前年度増加して志願者数が 10 万人を上回った反動がはっきりと表れて、2 万人以上もの大幅減少で、全大学で志願者数の減少が最も多い大学となりました。